

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090200294		
法人名	営利法人 ウオーウハートカンパニー株式会社		
事業所名	グループホーム 花水木		
所在地	群馬県高崎市上小埜町765番地		
自己評価作成日	平成31年2月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成31年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

南向きに建てられた建物でバリアフリーとなっている。廊下からトイレ居室にいたっては車椅子の方が並走してもぶつからない十分な広さを確保している。、ホールのサッシは全面開放になる為大変解放感のある空間になっている。またそのサッシからベランダへ、ベランダから庭へスムーズに移動でき、これもまた開放的で圧迫感がまるで感じられない工夫がしてある。庭については約100坪あり芝生が植えられていて、四季を感じられる緑ある生活ができるようにして、天気の良い日には庭でランチやお茶会を楽しむことができる。食事提供は自炊で行っている為、急に利用者様が「〇〇が食べたい」などとリクエストも買ってきたり作ったりできるのも魅力だと思う。また地場農産や季節のものを 取り入れた料理を提供し、安心で安全で新鮮な食材に心がけて調理している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全職員が、利用者一人ひとりの尊厳を重視した支援を心がけ、事業所独自の「自己点検シート」により、定期的なセルフチェックや話し合いを行い、言動に注意した支援に取り組んでいる。日々の生活においては、年中行事を取り入れた昔馴染みや季節感のある生活の支援に努め、彼岸のおはぎづくり、芋煮会、十五夜のお団子づくりや庭でのお月見、暮れには大掃除月間として居室の清掃やホールの窓拭きを職員と一緒にするなど、季節感や張りのある生活の支援の提供に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目につく場所に理念・介護方針を掲示し、1日2回業務申送りの時に唱和を行い意識しながら業務に努めている。	開設時に創設した理念は、事業所の介護基本方針と共に常に意識、また実践化できるように、代表、管理者、ケアマネージャー等が日常的に職員に声かけしている。「どのようなことが尊厳に結びつくのか」等、入居者の限られた時間を大切にしたい支援の提供について、職員同士が話し合い実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方々が事業所に関心をもって下さっている。例えば、利用者が散歩したり庭にいたり、犬のお散歩中のご近所さんが声をかけてくださったり、犬をさわらせてくださったり交流をしている。隣接している境界線の草むしりを行ったり、地域に馴染む努力をしている。	地域とのつながりの重要性を事業所として理解しており、日常的に近隣を散歩、草むしり等を通じて地域の人達と挨拶や会話を交わしている。また、運営推進会議メンバーから地域の高齢者世帯などの情報を得て、地域貢献を意識し取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方や家族の悩みを、運営会議などで匿名で具体例として話し、どうやって改善解決策を行うかまた、どのような相談窓口や公共機関があるか伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族からの意見や思いを慎重に受け止めるとともに、自己評価にどのように反映できると常に、話し合いよりよいサービス提供になるよう努力している。	会議は2ヶ月に1回開催し、事業所の活動や入居者の状況などを報告している。会議開催においては、事前に家族宛てに通知をしているが、現状として参加が得られない状況である。	会議開催においては、事前にテーマを決めるなどにより、直接的な会議参加の機会が得られてなかったとしても、より多くの関係者の意見や思いが得られるような、結果として会議に参加してもらうような取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ちょっとした疑問や、家族から聞かれた質問など正確かつ迅速にお答えする為、管轄の市や県、必要に応じて地域包括に相談等に乗っていただいている。	市の介護保険課に、介護保険に関する手続きについて、福祉課には生活保護に関する相談など、疑問時には電話や直接出向き相互関係の重要性を理解のうえ、コミュニケーションを図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期会議で拘束ゼロの徹底を周知させ実行させている。玄関は常に開放しているが、防犯上必要となったときは施錠している。各個室ドアにも鍵はついておらず身体後続廃止を徹底して実践している。	玄関は施錠せず、見守りを重視した支援を行っている。そのようなことを含め、身体拘束廃止を進めるための「自己点検シート」を作成し、全職員が定期的なセルフチェックを行い、身体拘束をしないケアの実践に向けた努力を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束ゼロ運動を全職員に周知し実行している。また年に3回以上の身体拘束廃止会議を行い、日頃から拘束をしないケアの意識付けを行って全職員にセルフチェックを定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ある程度の知識はそれなりに勉強しているが、専門分野はその道のプロにまかしている。各分野の専門家が必要又は家族から相談を受けたときは速やかに専門家を紹介し諸処問題を解決や改善する支援を無償で行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う前に十分時間を設け、利用者や家族等契約に係る方とは話し合いを行い、解釈や意見の相違が起こらないよう説明している。また契約するときも座談を交えながら質疑回答を行い、ひとつひとつ承知しながら進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営指針会議で家族等からの発言時間を設けている。また意見箱を常駐して、匿名でも意思表示できる環境を作っている。意見や希望が聞かれた時は職員会議で発表しそれについてどのようなサービスが行えるか話し合っている。	事業所内に意見箱を設置している。また、あえて毎月の利用料を持参して頂き(振り込みを認めず)、利用者との面会やケアプランの説明の直接的な機会を創出するとともに、家族からの意見や要望などを聞く機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月管理者を司会として職員会議を設けて時短パート職員も参加して意見など発言しやすい環境を作っている。その意見や提案は管理者会議と称して最低月1回行い、管理者が職員会議で取りまとめた現場の意見や提案を上長へ報告し運営の質の向上に反映させるようにしている。	職員全員が参加できるように会議を2日の日程で設定し、それを月2回実施し、そのなかで備品購入の要望や職員の個別の休憩時間確保について話し合うようにしている。そのような職員の意見表出の機会を通じて、「職員の休憩時間の確保」等意見の実践化を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場から運営者まで「風通しのよい職場」を公言し実行している。努力や職務態度など毎月査定を公正に行い、職員の就労努力が給料に反映させるようにしている。休憩時間は、ゆっくりと息抜きができるような環境を作っている。不定期に職員と面談時間を設け、たわいのない話をして運営者と職員のコミュニケーションをとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県主催研修会を積極的に受講できるようにしている。職員の力量に見合いつつ、今必要とされる知識や技術について事業所独自の研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流をもったからといって、サービス向上にはつながらない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他愛のない会話から不安や困りごとを推測したり、本人以外にも家族からお聞きしたりもする。また本人に尊厳をもって接し信頼関係を築き、安心できる環境を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のニーズに合わせてできないことを説明し理解していただくところから信頼関係を築き誠意をもって接する努力を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から契約前に話し合ったとき事業所以外のサービスが望ましい場合は施設の紹介をしたり行政の相談窓口をお教えしたりその方や家族にとって今なにか必要かを見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にある「愛」をもって接し、親しみを込めた介護に心がけ、介護する側される側という立場にならないよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回は家族が事業所へ訪問されるようお願いしている。そこで職員と家族のコミュニケーションや本人が家族から孤立しないよう絆が絶えないよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の生活歴を家族から教えていただき、回想法などを用いて普段の話を工夫している。ドライブなど外出するとき、可能であればなじみのある場所に立ち寄り景色を眺められるように支援している。また市内の利用者様なので、職員との生活圏が同じだったり地域の話や共通の知合いの話題もできる支援をしている。	利用者の生活史についての十分なアセスメントを重要視し、加えて家族などの関係者からの意見を参考に、利用者の生活者としての理解を深めようとしている。そこから得られた情報をもとに、昔馴染みの食堂への外食や馴染みの美容院へ行くなどの具体的な活動について、家族と相談しながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人付き合いの苦手な方も利用者様の中にはいる。そういった方にも孤独感を感じないよう職員がさりげなくコミュニケーションをはかり寂しい思いをさせないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族や利用者から相談があれば真摯に相談に乗り問題解決に向けて支援している。また、次の転居先へ訪問したりして近況を聞いたりコミュニケーションをとって絆を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	やってきたこと、やってみたいことを本人または家族からまずはお聞きして、できることできないことを話し合いながら検討している。また希望や意向がない方やまたは家族からの意向もない場合は、その利用者様の生活歴や趣味趣向から導くよう努めている。	日々の会話の中から、また日頃の観察とその変化を通じて、本人の思いや意向を確認している。家族へ電話したい、衣類を購入したい等の要望時は、家族に伝え思いの実現を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方一人ひとりの生活歴(歩んできた人生)や趣味趣向、また現在どのような生活を送っているかを本人または家族からヒアリングまたはアンケート式でお答えしていただき、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共同生活なので、その方の残存能力を生かせる過ごし方を提案していて、記録やバイタル等のデータを参考にしつつ、本人からのヒヤリングなど観察を行い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から現状や困ってること、不安におもふことを聞き介護職員等と話し合い検討し、介護計画を作成している。	介護計画は、本人の意見、また家族からの意見等を反映させ、暫定のプランを作成し、職員間で話し合い作成している。毎月全員のモニタリングを行い、その中で発見されたプランの変更部分については記載の文字の色を変え記し、職員間で情報共有するようにし、日々の介護の方向性の統一を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期会議でケアの実践を振り返り、気づきや意見交換など情報提供と共有に努めている。また、その都度計画と実践に相違ないか確認しながら見直しをしつつ、ケアに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的サービスの説明は契約時にさせていただいているが、その利用者や家族の状況もあるので、その時々そのニーズにあった支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元公民館で行っているサロンなどの活動を民生委員からお誘いを受けたり、ご近所の方々と日頃から声をかけていただいたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人または家族の希望を主としている。かかりつけ医と事業所は、本人や家族を飛び越えずにケアに適切な医療を受けられるよう支援している。	契約時に協力医の説明を行ったうえで、希望する医療の提供の在り方について、本人・家族とともに決定を行っている。系列事業所での月1回の受診時は、ドライブを兼ね出かけている。医療の提供に付加価値をつけ、利用者の活動と交流の機会を創出している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所では看護職は勤務していないが、協力医である医院に相談や現状の状況を共有し適切な受診や治療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は入院先から求められる事業所での生活や身体状況の情報を提供し速やかに入院治療が行えるよう支援している。入院中については家族から医師の説明や今後の治療内容などの情報を頂きながら退院後のケアの予測をしつつ、可能であればお見舞いに行き本人に面会をして不安を与えないよう努めている。退院後は医療機関からサマリーをいただき退院後の状態に応じたケアが速やかに行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末の在り方やそのときにとる支援や行動は、早い段階で本人または家族等と話し合い、その時になったらの希望を聞き事業所でできることできないこと、または現状を把握し、情報を共有しケアに取り組んでいる。	利用契約時に、食事摂取が困難になった場合など、医療行為が必要となった場合は、入院や他施設への入所の方針を説明している。状態変化時には、協力医の指示のもとに職員間で話し合い、支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会議の時、急変や事故発生等のアクシデントに備え速やかに対応や処置ができるように全職員に訓練を行っている。また、救急搬送などを要請する際は隊員や搬入先の医療機関で速やかに情報提供ができるような体制やキットを用意している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	上記でも既述したように訓練を行っている。それに加え事業所所在地の地形等を考慮しどのような災害が起こりうるか想定して対策や対応を行いつつ、広域災害に備えての避難経路や対策も行っている。	年2回、消防署立ち合いのもとに、夜間想定での避難訓練を実施している。訓練時は、利用者も参加している。また、落雷、停電時など種々の災害を想定した自主訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様に対して「人生の先輩」であるという認識をもつよう教育し、いち人間としての尊厳や人格を尊重した介護を行っている。	一人ひとりを尊敬し、生活歴を把握し、個別の対応に努めている。特に、排泄や入浴介助時などにはプライバシーの確保と羞恥心へ配慮した言動に、注意を払うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活をメリハリのある過ごし方ができるように支援し、その中でその方らしい生活を送っていただいている。また自己決定が難しい方や意思表示が苦手な方は、職員がその方に寄り添い把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康的な基本的な生活リズムの中で、その人らしいペースで過ごせるように支援している。また、体調などを重視して、無理のない生活を送っていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	プロの訪問美容にお願いしお好きなカラーに毛染めすることも可能な支援を行ったり、ちょっとした薄化粧ができるよう事業所でキットを準備したりしておしゃれを楽しめるように工夫している。また、清潔な衣装に心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自炊しているので、利用者様の嗜好や、急に食べたくなったリクエストなど可能な限り速やかに提供している。例えば「おっきるこみが食べたくなった」「あんみつが食べたくなった」等。また、できる方には調理や片付けを職員と一緒に無理のない範囲で行っている。	食事は、業者による献立を参考にし、季節の野菜、果実などの食材を採り入れ調理している。また、行事食や利用者の希望を受け、週に一度、曜日を決めてお刺身の日を設定する等、食事が楽しめるような支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量を記録し、栄養摂取の把握に努めている。水分補給は小まめに摂取できるよう工夫して、一人ひとりの利用者様を注意深く観察し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、清潔にするよう努めている。また概ね4ヶ月に1回、歯科医による口腔内のチェックも行い、ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録によって、排泄のパターンを把握して気持ちの良い排泄ができるよう支援している。排泄の失敗を少しでも減らすように職員が話し合いチームケアで取り組んでる。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導により、排泄の失敗を減らすような支援に努めている。また、トイレでの排泄が困難な方であっても、声かけや付添いにより、日中はトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず、食生活で乳製品の摂取などを工夫してケアしたり、適度な運動を取り入れたり予防や解消ができるように行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ケアプランで入浴日はある程度決めてあるものの、利用者様の心身状態や体調、希望を考慮して入浴していただいている。また衛生面にも考慮し入浴していただいている。	入浴は週2回を基本としているが、利用者の希望や体調、状況に応じて入浴ができるよう柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は十分な広さがあり利用者様がゆったりとすごせる場所になるよう環境を整えている。また心身状態により眠れない方には、職員が寄り添い安心して睡眠できるようにケアしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員について、一人ひとりの使用されている薬の情報を共有して把握し、服薬間違いや飲み忘れが起きないように徹底的に教育している。また、医師から新しい薬が処方されたときは、しばらく服薬された後の変化を注意深く観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習字の達筆の方には、行事などの題字を書いていただいたり、裁縫のできる方には縫物をお願いしたりしている。カラオケ機器がありカラオケ好きな方は歌を披露して下さったり、その時々に応じた楽しみを提供したり役割分担をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	戸外に出られる方については、外食やドライブを行っている。希望をかなえたくてもその方の心身状態によっては不可能であるときもある。また残念ながら外出が困難な方には、思い出の品や写真などを見ていただき疑似体験してもらっている。	天気の良い日は、近隣を散歩している。ドライブを兼ね、昔馴染みの食堂やお団子屋へ行ったり、家族と一緒に墓参りや馴染みの美容院へ行くなど、家族と協力し支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出先では、利用者様が買いたいときは買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から依頼や希望があれば、いつでも電話で家族やその話したい相手にお取次ぎをしている。家族から電話があったときもそのように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	余裕を持った空間になっていて、敷地など立地条件も含めて利用者おぼ遣家族からは大変好感を持っていただいている。穏やかな時間の中で過ごしていただけるような工夫をその時々によって取り入れている。	居間から続くベランダはガラス戸が全面開放になり、天気の良い日は自由にベランダや庭に出て過ごせるようになっている。広い廊下は車いすの往来も容易であり、歩行訓練の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	孤立しないように、ソファや椅子の配置に心がけるとともに、過密にならないようにも工夫している。お好きな場所、お気に入りの座るところになるような支援もしている。居心地のよい環境になるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者様占有空間であるという旨を家族にも利用開始前に説明し、なじみのある家具や思い出の写真などを設置したり、中には位牌をまつり方もいて、自宅のご自分の部屋のように過ごせる環境を支援している。	居室には、仏壇や馴染みの家具・テレビなどが自由に設置されている。また、家族の写真や利用者の作品などが飾れるなど、本人が居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等、利用者様が理解できるような大文字で表示したり、バリアフリーはもちろんのこと、なるべく自由に行動できる環境づくりをしている。		